

被服の着装による感情変化測定尺度の作成

—学外サークル活動の場合—

Development of a Scale of Affective Change Generated by Dressing In Case of Off-campus Circle Activities

(1994年4月8日受理)

宇野 保子 近藤 信子 渡辺 澄子 川本 栄子
Yasuko Uno Nobuko Kondoh Sumiko Watanabe Eiko Kawamoto

Key words : 感情変化測定尺度用語, デンドログラム, クラスタ分析

1. 緒 言

感情経験を測定しようとする試みは、心理学者によって古くからなされてきたが、感情を主観的な体験からとらえ、これを測定しようとする試みがなされたのは、1960年代にはいつてからである。欧米では、Nowlisらが大学生を被検者としてあらかじめ選定した形容詞を用いて、様々な状況下における各時点での感情状態を評定させ、この評定結果をもとに因子分析を行いMAACL[®] (Mood Adjective Check List)を作成している。日本では最近、寺崎らが日本語による多面的感情状態尺度質問紙の作成[®]を行なっている。また、被服心理学の立場からは藤原らが、女性の服装を評価する用語の分類[®]を行なっている。

筆者らが所属する被服心理学研究分科会では、このような関連の研究をふまえ、平成4年から「被服の着装による感情変化測定尺度の作成」を一連のテーマとしてきた。これは、華やかなパーティードレスを着ることによって華やいだ気分になったり、スポーティーな服装をすることによって軽快な気分になるなど、日常人間が経験している服装を変えることによって変化する感情状態を測定する尺度作りを目的とするものである。研究会では、服装、人間、場面の相互作用によって生起する多様な感情を幅広く収集するために、まず女子学生が遭遇するであろうと思われる服装場面を設定した。それは、①卒業記念パーティー、②デパートへのショッピング、③会社訪問、④通学、⑤学外サークル活動 の5場面である。それぞれの場面について感情変化測定尺度用語の収集と選択を行ない、その階層構造を明らかにして、感情変化測定尺度作成のための基礎資料を得た。

筆者らは、⑤学外サークル活動の場面を担当し、若干の知見を得たので、これを報告する。

2. 方 法

2-1 感情変化測定尺度用語の収集と選択

平成4年6月～7月にかけて、近畿・中国地区の2校の女子学生計95名を対象に、学外サークル活動に着用する服装として適当と思われるスタイル6体を写真、スライドで示し、その被服を着用した時の感情変化を言葉で表現し、記述するように指示した。(写真1) また他の近畿地区の女子学生237名に対

象に同様の方法で、やや不適と思われるスタイル3体を示し、言葉の記述を求めた。(写真2) こうして得られた用語のべ197語と261語の中から61語を選び出した。この選択にあたっては、感情を表わす用語のみに限る。同義語、類似語はまとめて、あるいは代表的な一語を採用する。という基本に従った。

2-2 K. J.法^④による概念分析

収集した「感情を表わす用語」から選択した61語は学外サークル活動の場合の「感情変化測定尺度用語」として取り扱い、(以下感情用語と略して記す) K J法による概念分析を行なった。この分析は、本報の共同研究者4人が平成4年8月に行なった。

2-3 ワード法によるクラスター分析

学外サークル活動の場合の感情用語として選定された61語を、1語ずつカードに記入し、評定者に一組ずつ配布し、意味内容が類似していると考えられるカードどうしを集めてグループ化するように指示した。評定者は、感情用語の収集を行なった女子学生と同一の近畿・中国地区2校の計100名で、平成4年10月～11月に実施した。

評定者によってグループ化されたグループ数は、それぞれ異なり、最小が6、最大が32のグループにまとめられていた。この結果をもとに、61語すべての組み合わせについて、類似率を算出してマトリックスを作成した。類似率の算定は次式によった。

$$S_{jk} = N_{jk} / n \quad N_{jk}; \text{用語 } j \text{ と } k \text{ が同グループ化された頻度}$$

$$n; \text{判定者総数}$$

次に社会統計分析パッケージ (SPSSX) を用いて、ワード法によるクラスター分析を行なうため、類似率を次式により距離データ (P_{jk}) に変換しこれを入力データとして分析を行なった。

$$P_{jk} = 1 - S_{jk}$$

3. 結果および考察

3-1 共同研究者によるK J法の概念分析

筆者ら4人で、61語の感情用語を意味内容が類似していると思われる用語どうしを集めK J法による概念分析を行なった。その結果が図1である。

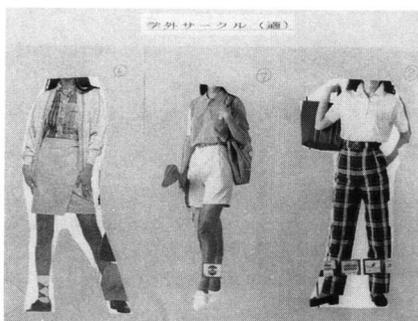


写真1 適するスタイルとして使用した写真



写真2 やや不適のスタイルとして使用した写真

61語の感情語のうち38語が肯定的感情用語に、23語が否定的感情用語に分けられた。さらに肯定的用語は、「快活さ」をはじめとする8グループに、否定的用語は、「意気消沈」をはじめとする4グループに分類された。

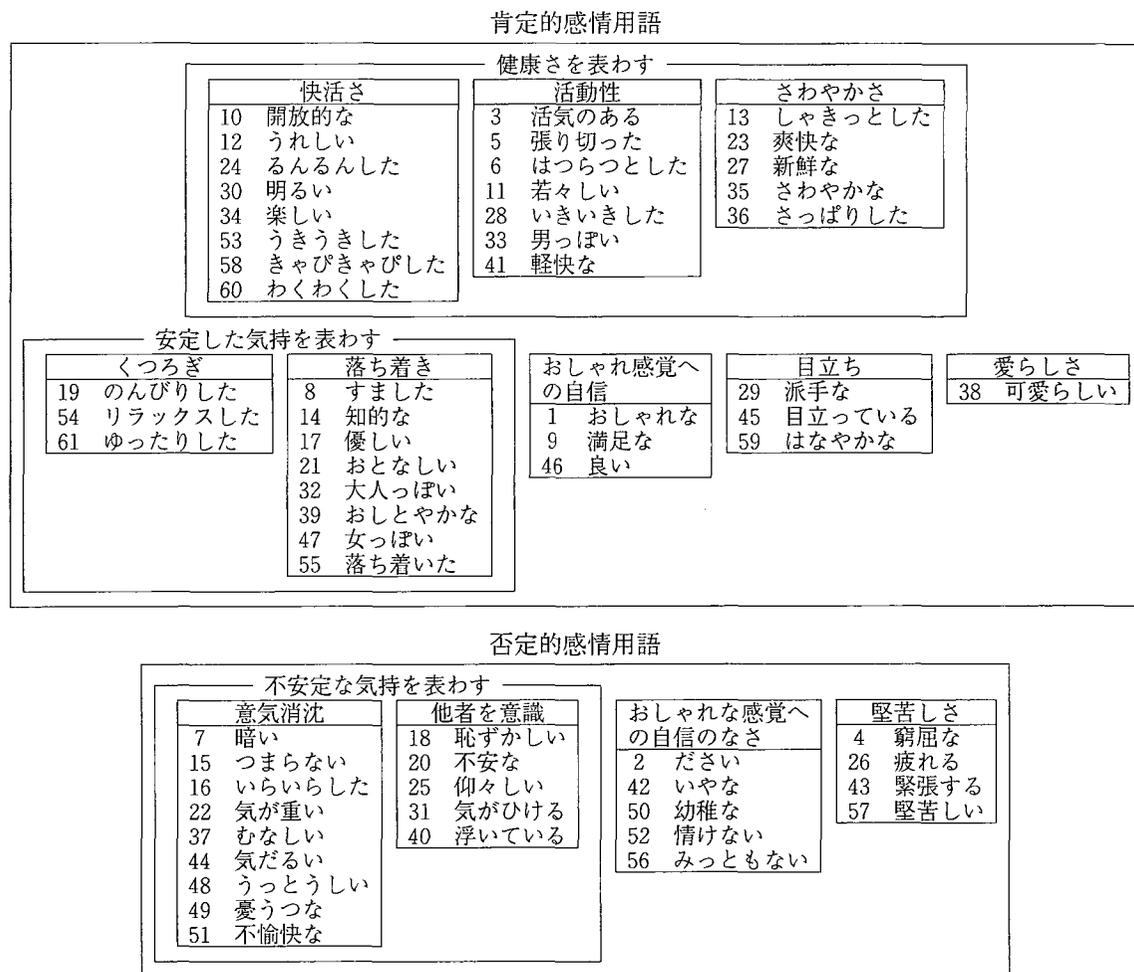


図1 K J法による概念分析

3-2 女子学生を評定者とする感情用語の類似率

感情用語61語の全ての組み合わせについての類似率を算出した結果、「派手な」と「目だっている」の用語がグループ化されている頻度が最も大きく、類似率は0.74であった。以下、類似率の高い組み合わせとしては、0.73の「うきうきした」-「わくわくした」、「リラックスした」-「ゆったりした」0.72の「わくわくした」-「るんるんした」、「活気のある」-「張り切った」の組み合わせとなっている。いずれもK J法の概念分析で初期の段階でグループ化された組み合わせであり、仮説どおりといえる。また、「ゆったりした」-「きゅうくつな」「おしゃれな」-「ださい」等は、いずれの評定者によってもグループ化されなかったため類似率は0となった。このような類似率0の組み合わせは、61×61のうち、477対であった。

3-3 女子学生を評定者とする感情用語のクラスター

図2は、感情用語の類似率のマトリックスをインプットデータとして、クラスター分析を行なって得られたデンドログラムである。このデンドログラムは、一つの用語を一つのクラスターとみなし、順次最も類似しているクラスターどうしが結合し、階層構造をとって最終的にすべての用語が一つのクラスターになるところまでの結果を示している。

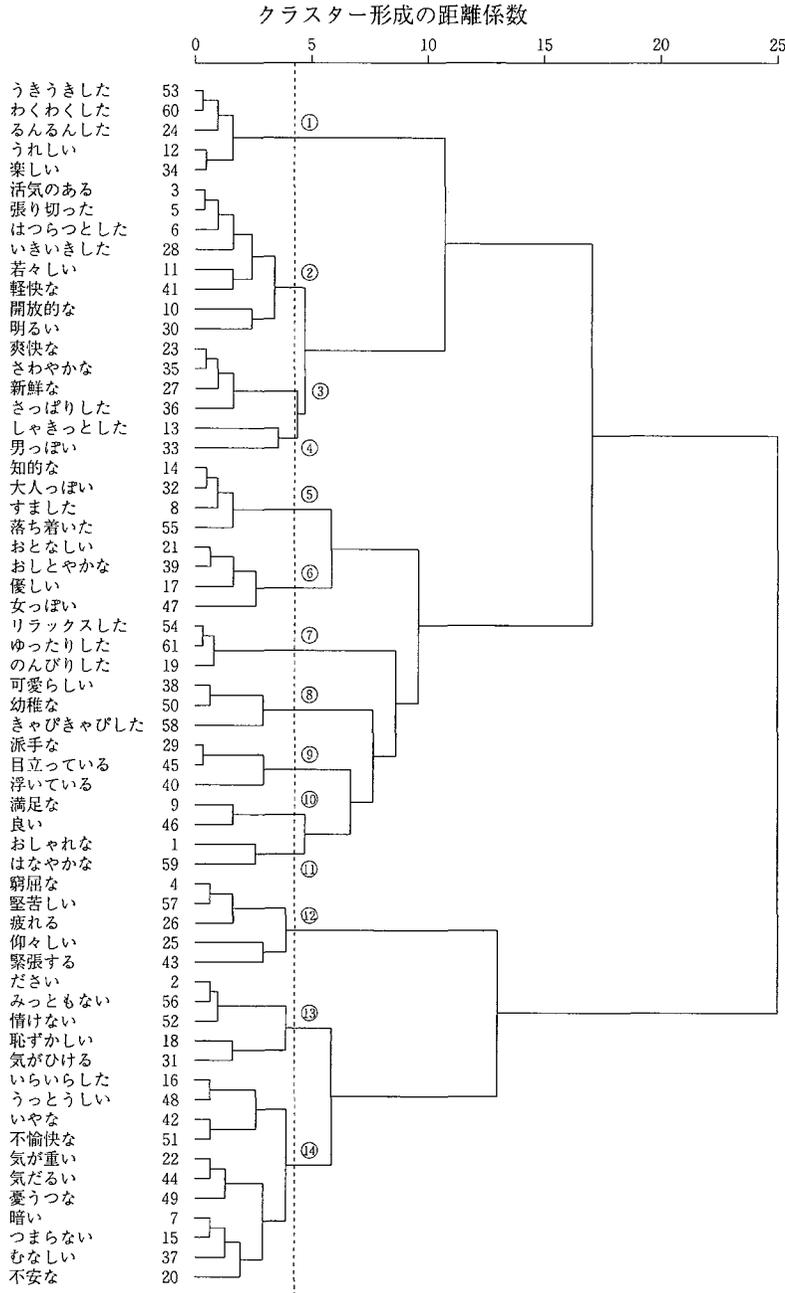


図2 被服の着装による感情変化測定用語のデンドログラム

クラスターの分割については、K J法による感情用語の分析結果を参考に図中の4.2を示す点線で分割して14個のクラスターを得た。以降、これを最小のクラスターとして解析を進めた。クラスター1は、「うきうきした」から「楽しい」までの語から構成されているので、この意味内容を総合する言葉として「心楽しい」気分を表わすクラスターと命名した。以下同様に、2は「快活な」3は「さわやかな」4は「男っぽい」5は「落ちついた」6は「やさしい」7は「くつろいだ」8は「愛らしい」9は「目立つ」10は「満足な」11は「おしゃれな」12は「堅苦しい」13は「恥ずかしい」14は「憂うつな」クラスターと命名した。

3-4 階層構造の解釈

図3は、14個の基本クラスターが互いに、用語間の距離が小さいものから順に結合を繰り返し、高次のクラスターを形成していく過程を表わしている。まずクラスター3と4は結合して「男性的なさわやかさ」を表わすクラスターLを形成し、さらにクラスター2と結びついて「快適さ」を表わすKのクラスターを構成している。Kは①と結合してクラスターDとなっているが、これを各クラスターを構成する意味内容を総合し、クラスターEと対の位置にあることも考え合わせ、「健康なおしゃれ」を楽しむ気分を表わす感情変化測定用語と表現した。

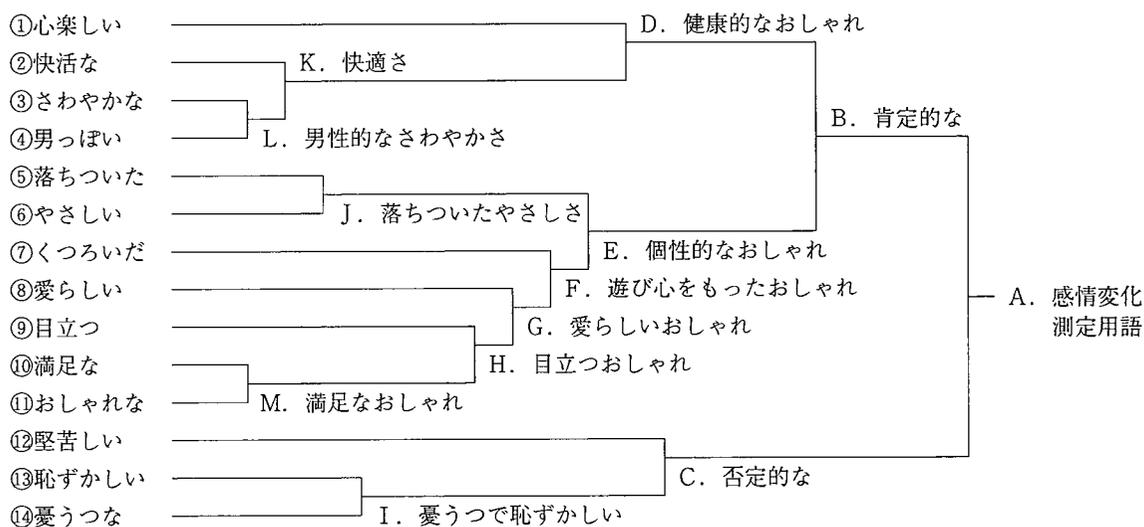


図3 被服の着装による感情変化測定用語・各クラスターの階層構造

クラスター10とクラスター11が結合して、Mの「満足なおしゃれ」を表わすクラスターを構成している。一方、5と6のクラスターが結合してクラスターJ「落ちついたやさしさ」を形成している。クラスターMは、クラスター⑨と結びついてクラスターHを、さらにクラスター⑧と結びついてGを、次に⑦と結びついてFのクラスターを構成している。クラスターFは、すでに構成されているJのクラスターと結合して高次のクラスターEを形成している。Eは、Dと同様の考え方で、「個性的なおしゃれ」を楽しむ気分を表わす感情変化測定用語とした。ここで、クラスターDとEは、いずれも肯定的な感情を表わす用語としてBのクラスターに集約される。

クラスター13とクラスター14は結合してIの「憂うつで恥ずかしい」クラスターとなり、12のクラスターと結びついて、否定的な感情を表わすクラスターCを形成している。最終的には、40語を含むBの

クラスターと21語から成るCのクラスターが結びついて、すべての感情変化測定用語を含むクラスターAが構成されていることがわかる。

以上のように階層構造の解釈を行なうと、女子学生が学外サークル活動の場で被服を着装して肯定的な感情変化を伴うのは、「健康なおしゃれ」を楽しむ気分になる時と、「個性的なおしゃれ」を楽しむ気分になるときであり、否定的な感情変化を伴うのは、「憂うつで恥ずかしい」気分になる時と、「堅苦しい」気分になるときであるといえる。

このように、各段階のクラスターが明確な意味構造をもち、学外サークル活動の場面での多面的感情状態をよく説明していることから、本報の目的である感情変化測定尺度作成の基礎資料として有効であると考えられる。

3-5 K.J法とクラスター分析との比較

筆者ら4人が仮説としたK.J法の概念分析とクラスター分析の結果を比較すると、クラスターEの「個性的なおしゃれ」に対する概念の違いが指摘される。すなわち筆者らが、図1で「おしゃれ感覚への自信」「目立ち」「くつろぎ」「落ち着き」等、各々異なったファッションの価値判断からくる感情として捕らえたものを、女子学生らは個性的なおしゃれとして、多様なものを広い範囲で肯定的に受け入れていることである。クラスター8の「幼稚な」を「可愛い」や「きゃぴきゃぴした」と類似した言葉として捕らえ、個性的なおしゃれとしているのがその例である。しかし、クラスターDの「健康なおしゃれ」とクラスターEの「個性的なおしゃれ」に属する語を全体のまとまりとして捕らえると、両方法でほぼ一致し、しかも61語中にしめる割合が3分の2の多数をしめ、この場面での大きな特徴となっている。

これは現代の若者が、社会規範や固定観念にとらわれることなく自由な服装を楽しむことのできる学外サークル活動の場面での独特の肯定的感情といえよう。

4. 要 約

感情変化測定尺度作成の基礎資料を得るため、女子学生が遭遇すると考えられる場面の内、学外サークル活動の場面について、適当と思われる服装とやや不適と思われる服装のスライドを提示して、それを着用したときの感情を表現する用語を収集した。その中から選定した61語を感情変化測定尺度用語として、本報の共同研究者4人でK.J法による概念分析を行なった。それと共に、女子学生100人を評定者としてグループ化させ、61語すべての組み合わせについて類似率を算出してマトリックスを作成し、これを距離行列へ変換してワード法によるクラスター分析を行なった。

その結果、①心楽しい、②快活な、③さわやかな、④男っぽい、⑤落ち着いた、⑥やさしい、⑦くつろいだ、⑧愛らしい、⑨目立つ、⑩満足な、⑪おしゃれな、⑫堅苦しい、⑬恥ずかしい、⑭憂うつな、の14クラスターに分かれた。さらにこれらのクラスターの断層構造を考察したところ、③と④の結合したクラスターが②と結合し、それがさらに①と結合して、「個性的なおしゃれ」を楽しむクラスターが構成されていた。そしてこのふたつのクラスターが結合して高次の「肯定的な感情用語」のクラスターとなった。一方、⑬と⑭さらに⑫が段階的に結合して「否定的な感情用語」のクラスターを形成することがわかった。

以上のように、学外サークル活動の場面特有の意味内容をもつ明確な階層構造をもった感情用語が収

集・選択されていることがわかり、今後の感情変化測定尺度の作成のための基礎資料を得ることができた。

本研究は、被服心理学研究分科会（大阪）の共同研究として行なわれたものの一部である。ご指導いただいた鳴門教育大学藤原康晴先生、奈良女子大学中川早苗先生、梅花短期大学家本修先生、ならびにご協力をいただいた会員の皆様に深謝する。

5. 参考文献

- ① V. Nowlis ; Research with the Mood Adjective Check List. In S. S. Tomkins & C. E. Izard (Eds.) Affect, cognition, and personality. New York ; Springer. 352-389 (1965)
- ② 寺崎, 岸本, 古賀 ; 心理学研究, 62. 350 (1992)
- ③ 藤原, 川端 ; 日本家政学会誌 Vo. 140. No. 4 287-293 (1989)
- ④ 川喜多二郎 発想法 中公新書
川喜多二郎 続・発想法 中公新書